

## 『新スーパー過去問ゼミ6 ミクロ経済学』訂正表

(初版第1刷～4刷用)

- 10 ページ : (初版第2刷で修正)

「偏微分と全微分」の5行目

誤  $\frac{dy}{dx^2}$

正  $\frac{dy}{dx^1}$

同7行目

誤  $\frac{dy}{dx^1}$

正  $\frac{dy}{dx^2}$

- 23 ページ : (初版第2刷で修正)

「重要ポイント2 無差別曲線」のグラフの下

誤 図中の  $x=8, y=1$

正 図中の  $x=1, y=8$

- 26 ページ :

「重要ポイント6 顕示選好理論」のグラフの下1行目 (初版第2刷で修正)

誤  $y$ 財の価格が低下して

正  $y$ 財の価格が上昇して

同3行目 (初版第3刷で修正予定)

誤  $y$ 財の価格低下後

正  $y$ 財の価格上昇後

- 41 ページ : (初版第3刷で修正)

「重要ポイント3 需要の所得弾力性と財の分類」の奢侈財の説明の2行目行頭

誤 者の

正 両者の

- 42 ページ : (初版第2刷で修正)

「重要ポイント6 連関財」の青囲みの中

誤 粗代替財:  $X$ 財の価格が上昇したときに  $Y$ 財の需要の増加が増加した。

粗補完財:  $X$ 財の価格が上昇したときに  $Y$ 財の需要の増加が増加した。

正 粗代替財:  $X$ 財の価格が上昇したときに  $Y$ 財の需要が増加した。

粗補完財:  $X$ 財の価格が上昇したときに  $Y$ 財の需要が減少した。

● 70 ページ : (初版第3刷で修正)

ポイント1の最終行

- 誤 需要曲線上の値を  $\Delta D / \Delta p$ , には～  
正 需要曲線上の値を,  $\Delta D / \Delta p$  には～

● 71 ページ : (初版第2刷で修正)

下から7行目

- 誤 変化率より大きい  
正 変化率より小さい

● 76 ページ : (初版第2刷で修正)

No. 2の解説3の2行目

- 誤 テーマ8重要ポイント7参照  
正 テーマ8重要ポイント5参照

● 82 ページ : (初版第3刷で修正)

No. 7の解説STEP②の3行目の式の最初の等号の右

- 誤  $dx/dp$   
正  $-dx/dp$

同・最後の等号の右

- 誤  $-5/4$   
正  $5/4$

● 83 ページ : (初版第3刷で修正)

No. 8の解説STEP①の2行目

- 誤 上級財でも下級財でも右上がりである。  
正 上級財でも下級財でも右下がりである。

● 101 ページ : (初版第2刷で修正)

No. 6の解説STEP③の下から2～3行目

- 誤 所得効果で16から8へと8減少、代替効果で8から4へと4減少する  
正 代替効果で16から8へと8減少、所得効果で8から4へと4減少する

● 108 ページ : (初版第2刷で修正)

「重要ポイント2 異時点間の最適消費(2期間モデル)」の15行目

- 誤 今期の予算制約式を…と変形し, 来期の予算制約式に代入すれば  
正 来期の予算制約式を…と変形し, 今期の予算制約式に代入すれば

●111 ページ : (初版第3刷で修正)

上のグラフの下2行目

誤  $\sqrt{Y^c}=17.3$

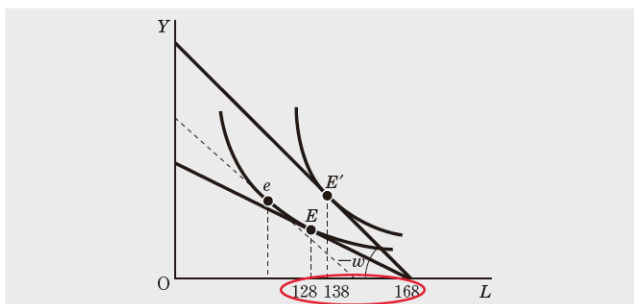
正  $\sqrt{Y^c}=13.7$

● 121 ページ : (初版第2刷で修正)

No. 6の解説のSTEP②(下図参照)

**STEP② 最適消費の図的分析**

分析単位を1週間(24時間×7日間=168時間)にとり、横軸に余暇 $L$ を、縦軸に所得 $Y$ をとる。これらから効用を得る個人の無差別曲線は通常の形状とする。賃金率 $w$ (定数)、労働を $N$ とすると、この個人の予算制約式は $Y=wL$ であるが、ここに1週間168時間から労働時間を引いた時間が余暇であるとの条件 $L=168-N$ を代入すれば、 $Y=w(168-N)=168w-wN$ になる。つまり、予算制約線の縦軸切片は $168w$ 、傾きは $-w$ である。図では、賃金率 $w$ の900から1200への上昇によって予算制約線の傾きが急になった結果、最適消費点が $E$ 点から $E'$ 点へと移動し、全部効果によって横軸にとられた余暇が当初の $168-40=128$ 時間から賃金率上昇後の $168-30=138$ 時間に増加していることを表している。



● 121 ページ : (初版第3刷で修正)

No. 6の解説のSTEP②の4~5行目

$L$ と $N$ が入れ替わっていました。

誤  $=wL$ であるが、ここに1週間168時間から労働時間を引いた時間が余暇であるとの条件 $L=168-N$ を代入すれば、 $Y=w(168-N)=168w-wN$ になる。

正  $=wN$ であるが、ここに1週間168時間から労働時間を引いた時間が余暇であるとの条件 $N=168-L$ を代入すれば、 $Y=w(168-L)=168w-wL$ になる。

● 123 ページ : (初版第3刷で修正)

No. 8の[別解]の9行目

誤  $=2.2(38700-30S-S^2)$

正  $=2.2(37800-30S-S^2)$

● 124 ページ : (初版第2刷で修正)

No. 9の解説のSTEP②の下から2行目

誤 その消費者は危険回避的である。

正 その消費者は危険愛好的である。

● 155 ページ :

No. 5 の解説の STEP①の 2 行目 (初版第 2 刷で修正)

誤 平均可変費用は

正 平均費用は

同 STEP②の 2 行目 (初版第 3 刷で修正)

誤 平均費用は

正 平均可変費用は

同 STEP②の 5 行目 (初版第 2 刷で修正)

誤 損益停止点である

正 操業停止点である

● 161 ページ : (初版第 3 刷で修正)

19 行目

誤 短期平均費用曲線

正 短期限界費用曲線

● 166 ページ : (初版第 3 刷で修正)

No. 3 の解説の 1 (1 行解説およびその後の解説の 3 行目)

誤 長期総費用曲線が短期総費用曲線の下方に位置することはありえない。

正 短期総費用曲線が長期総費用曲線の下方に位置することはありえない。

No. 3 の解説の 4 の図

$SAC_1$  のグラフが下にずれていました。正しくは、 $LMC$  と  $LAC$  の交点を通ります。

● 178 ページ : (初版第 2 刷で修正)

No. 1 の解説の STEP①の最終行

誤  $MLP$

正  $MPL$

● 178 ページ : (初版第 4 刷で修正)

No. 2 の解説の 3 行目

誤  $MPK/w$

正  $MPL/w$

● 218 ページ : (初版第 4 刷で修正)

No. 1 の解説の最後から 2 行目

誤  $(y_1 + y_2 + y_3)$

正  $(y_1 + y_1 + y_1)$

● 239 ページ : (初版第3刷で修正)

15 行目

- 誤 戦略Aと戦略Bは無差別となる  
正 戦略1と戦略2は無差別となる

● 242 ページ : (初版第2刷で修正)

重要ポイント6 (下図参照)

(i) 前期までの相手企業の行動が協力的 (減産) である場合、今期の自企業は協調的行動 (減産) をとるが、(ii) 前期に相手が非協力的行動 (増産) をとれば、今期以降、自企業は永久に非協力的行動 (増産) をとる。

これはトリガー戦略 (引き金戦略) と呼ばれる。

また、 $n$  期後の利得  $x$  の割引現在価値は一般に  $\frac{x}{(1+r)^n}$  となる ( $0 < r < 1$ : 利子率、

割引現在価値についてはテーマ5重要ポイント2を参照) が、ここでは  $\frac{1}{1+r} = \delta$  となるような割引因子  $\delta (0 < \delta < 1)$  を用いて、 $n$  期後の利得  $x$  の割引現在価値を  $\delta^n x$  と表すことにする。

このとき、ある企業が今期に増産を選択すれば、今期に15の利得を得る代わりに来期以降は無限に5の利得を得ることになるため、利得の割引現在価値の総和は  $15 + 5\delta + 5\delta^2 + \dots + 5\delta^n = 15 + \frac{5\delta}{1-\delta}$  である。一方、減産を選択すれば今期以降、無限

に7の利得を得るので、割引現在価値の総和は  $7 + 7\delta + 7\delta^2 + \dots + 7\delta^\infty = \frac{7}{1-\delta}$  である。

つまり、ある企業が減産を選択する条件は、

$$\frac{7}{1-\delta} > 15 + \frac{5\delta}{1-\delta} \quad \Leftrightarrow \quad \delta > \frac{4}{5}$$

であり、2企業がともにこの条件を満たすなら、相手企業が減産を続ける限り、自企業も減産を続け、囚人のジレンマは回避される。

● 255 ページ : (初版第5刷で修正予定)

グラフの横軸

- 誤  $q$   
正  $p$

● 257 ページ : (初版第4刷で修正)

最終行

- 誤 No. 5 = 4  
正 No. 5 = 5

● 276 ページ : (初版第4刷で修正)

No. 4の解説のSTEP②のグラフの右側の囲み (Q3)

- 誤 超過供給価格  
正 超過需要価格

- 280 ページ : (初版第2刷で修正)

必修問題の解説のSTEP①の2行目

誤  $p=1.25p$

正  $p=1.25s$

- 281 ページ : (初版第2刷で修正)

必修問題の解説のグラフ

誤  $p=15s$

正  $p=1.5s$

- 287 ページ : (初版第2刷で修正)

No. 1 の解説のグラフ (横軸)

誤  $Q^*=60$

正  $Q^*=40$

- 289 ページ : (初版第2刷で修正)

No. 3 の解説のグラフ

青い部分

誤 生産者の負荷額

正 消費者の負荷額

灰色の部分

誤 消費者の負荷額

正 生産者の負荷額

STEP③の補足の4行目

誤 当初価格の 60

正 当初価格の 40

- 290 ページ : (初版第2刷で修正)

上から2行目

誤  $CGHG$

正  $CGHD$

- 294 ページ : (初版第3刷で修正)

No. 9 の3行目

誤 販売価格  $p_s$

正 販売価格  $p_d$

● 324 ページ : (初版第4刷で修正)

STEP②の7行目および10行目(式の第4項の分子)

誤  $1 y_A$

正  $1 u_A$

同10行目(式の第4項の分子)

誤  $1 y_B$

正  $1 u_B$

最終行(初版第5刷で修正予定)

誤  $\frac{16-x_A}{16-x_A} y_A = \frac{x_A}{16-x_A} y_A = \frac{9x_A}{16-x_A}$

正  $\frac{16-x_A}{16-x_A} y_A + \frac{x_A}{16-x_A} y_A = \frac{9x_A}{16-x_A}$

● 325 ページ : (初版第5刷で修正予定)

2行目

誤  $y_A = \frac{9x_A}{16-x_A} \cdot \frac{16-x_A}{16} y_A = \frac{9}{16} x_A$

正  $y_A = \frac{9x_A}{16-x_A} \cdot \frac{16-x_A}{16} = \frac{9}{16} x_A$

● 325 ページ : (初版第4刷で修正)

No. 7の解説のSTEP③の下から5行目の式中(一番左)

誤  $\sqrt{\frac{16}{81}} u_B$

正  $\sqrt{\frac{16}{81}} u_B$

同5行目の式中(一番右)

誤  $16^{\frac{2}{3}}$

正  $16^{-\frac{2}{3}}$

● 332 ページ : (初版第3刷で修正)

2行目

誤  $PMC^{\circ} = 2X + 20q + T$

正  $PMC^{\circ} = 2X + \underline{20} + T$

● 343 ページ : (初版第3刷で修正)

No. 2の解説STEP②の3行目

誤  $p = SMC$ を満たすA点

正  $p = SMC$ を満たすC点

- 346 ページ : (初版第3刷で修正)

グラフの縦軸

点  $E_1$  の縦軸の位置が  $p_1$ , 点  $F$  の縦軸の位置が  $B = 48$  となります。

- 356 ページ : (初版第3刷で修正)

グラフの中の記号抜け

$p_1 G p$  と  $BH$  の交点が  $I$  となります。

- 398 ページ : (初版第3刷で修正)

No. 2 の解説 STEP①の2行目

誤 テーマ 17

正 テーマ 16

- 399 ページ : (初版第3刷で修正)

No. 3 の解説 2行目

誤 なお, 【No. 2】とは

正 なお, 【No. 1】とは

- 415 ページ : (初版第3刷で修正)

No. 1 の STEP 2 の 5行目・6行目

誤  $P=4$  または  $P=6$

正  $P=60$  または  $P=70$

- 416 ページ : (初版第3刷で修正)

No. 2 の STEP 1 の 1行目とグラフの中の式 (2か所)

誤  $p = \frac{100}{3} - \frac{1}{6} S$

正  $p = \frac{100}{3} + \frac{1}{6} S$

- 418 ページ : (初版第3刷で修正)

No. 4 の 2行目

誤  $P=2\underline{X}+3$

正  $P=2\underline{S}+3$

以上

株式会社 実務教育出版